豪雨災害がきっかけの交流事業

尼崎の園児が田植えを体験

5月22日、春日町野上野地区の田んぼで、尼崎市から訪れた保育園児33人が田植えを体験しました。野上野地区では、平成26年の豪雨災害以降、関西国際大学との交流が始まり、今春からゆめの樹野上野がコシヒカリ「春日庄米」を給食用として大学の系列保育園に出荷しています。

ゆめの樹野上野の上山茂人社長は、「交流の輪を広げ、地域の発展につなげていきたい」と話しました。

田植えに挑戦する尼崎市の園児たち

廃校になった旧神楽小学校を活用

地場産材などの魅力や価値を発信

5月26日、旧神楽小学校が、国産材や地場産材の魅力や価値を発信する施設「FOREST DOOR しぐら」に生まれ変わりました。青垣地域の製材業「木栄」が木製品の展示販売、シロアリ研究、カフェや地域交流の場として、地域の活性化をめざします。

同社は「地元の杉・ヒノキの活用方法や魅力を市内外に発信し、国産材の需要が高まってほしい。都市との交流拠点などになれば嬉しい」と願っています。

教室に設置された木のおもちゃで遊ぶ子どもたち

ケイリー・ディケンソンさんに

国際交流親善大使を委嘱

谷口市長と握手するケイリーさん（写真左）

5月23日、柏原高等学校に交換留学生として1年間在学されていたケイリー・ディケンソンさんに国際交流親善大使を任命し、委嘱状とあわせて記念品を贈りました。

ケイリーさんは「丹波の人の優しさに触れて貴重な体験をし、自分の本質を知ることができた。上達した日本語を生かし国際交流に役立ちたい」と日本語で決意を述べました。

市制施行15周年を記念して

NHKラジオ「上方演芸会」を収録

公開収録で漫才を楽しむ観客たち

5月10日、ライフピアいちじまで、市制施行15周年を記念して、NHKラジオ「上方演芸会」の公開収録が行われました。多数の応募の中から当選した約500人の来場者は、Wヤング、祇園など人気コンビの漫才を楽しみました。

来場者は、「丹波市のことをネタに入れてもらえてよかった。収録前の拍手の練習など、ラジオの裏側が知れて面白かった」と話しました。

丹波の新名物が誕生！

地域資源を活用した商品が完成

5月15日、市内の8事業者が、丹波三宝の農産物など市の資源を使って開発した新商品を発表しました。事業者と生産者が協力して新商品を開発することで、農商工連携を推進し、地域経済の活性化につながることが期待されています。

各社のこだわりが詰まった新商品は、市内の各店舗などで購入または注文することができます。※商品の詳細は市ホームページに掲載。

開発した新商品を紹介する事業者

田ステ女俳句ラリー

今年も力作ぞろいです！

5月12日の母の日に、柏原市街地で「第23回田ステ女俳句ラリー」が開催されました。参加した131人は、柏原藩陣屋跡・太鼓やぐらなど歴史ある建物が残る柏原のまちを巡りながら句を詠みました。

大賞の「ステ女賞」には、神戸市の吉村艶子さんの作品「街薄暑（まちはくしょ） 魚（うお）よりくっきり 魚（うお）の影」が選ばれました。

柏原のまちを巡りながら作句する参加者のみなさん

産業振興に向けて

Bizステーションたんばを開設

起業相談を行うアドバイザーの三浦さん（写真右）

5月16日、起業や販路開拓、商品開発、新サービスの企画など、市内事業者の新たな事業活動をサポートする拠点を丹波市商工会館内に開設しました。2人のアドバイザー（中小企業診断士）が相談に応じ、経営課題の解決を応援します。

アドバイザーの三浦真（まこと）さんは、「夢や思いを現実に変えていくことが自分の使命。迷ったときに寄り添える存在になれたら」と話しました。

持続可能なまちづくりをめざして

市民説明会を開催

まちづくりビジョン説明会で意見交換する市民

5月12日、未来の丹波市の姿を描く「まちづくりビジョン」の策定にあたり、広く市民の意見を求めるため、市民説明会が開催されました。

将来人口が減少することを踏まえ、持続可能な都市の経営に向けて、市の中心部への都市機能の一定の集積と、住み慣れた地域での暮らしの実現に向けた20年後のまちづくりに関して、参加者との意見交換が行われました。